鋸山　山行報告

【山域】　　房総丘陵
【山行日】　5 月 29 日（金） 快晴
【メンバー】 CL 菅井　寺崎(記録)　登坂（元会員）
【行程】
　蘇我 IC8:35−富津金谷 IC−9:10 金谷湊−9:40 観月台分岐−10:25 石切り場−
　　−10:33 展望台 10:50−11:10 鋸山山頂 11:35-11:55 石切り場−12:55 北口−
　　−13:15 地獄覗き−13:45 大仏広場−14:20 北口−15:00 観月台−15:40 金谷ﾌｪﾘｰ

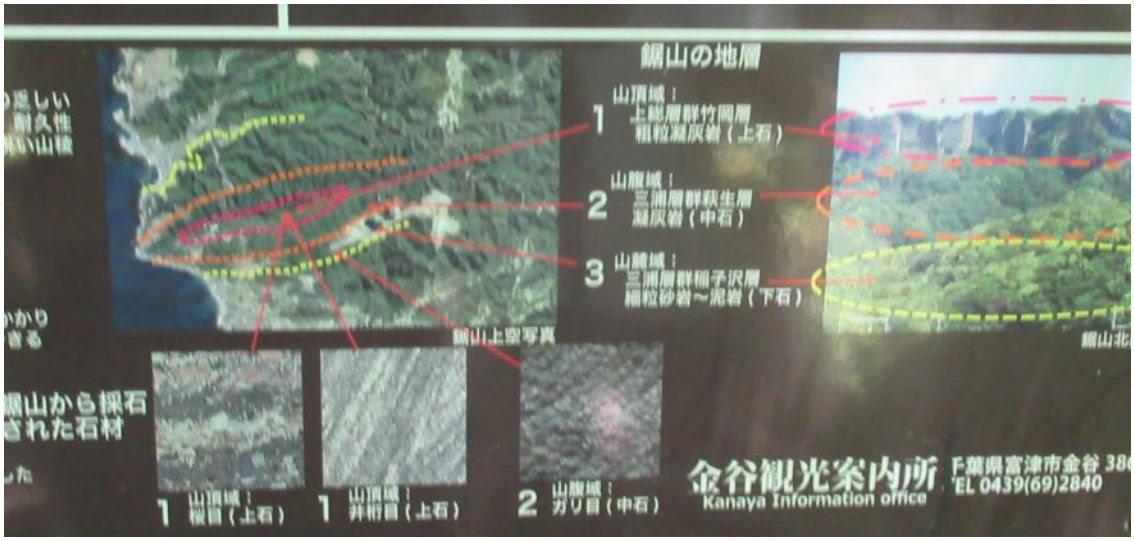
【報告】
　浜金谷に車を置いて、9時 30 分出発。町の中を通り抜け、神社を見ながら歩く。「房総石と芸術のまち　浜金谷」と書かれた看板の横には、英語で書かれた手書きの可愛い案内が添えてあった。
土砂崩れのため、ﾔｽﾍﾞｰ井戸コースは閉鎖。右の「車力道」を進む。何処にも倒木がかなりあり、夏の台風の凄まじさを感じる。
登山道が新たつくってはあるものの、結構急な折り返し。やがて、石を切り出し、港まで運んだという「車力道」に出た。そこは石が敷き詰められており、重さを覗わせる摺り下ろした石の角跡がずうっと続いていた。

倒木に囲まれた車力道跡を進むと、やがて深い樹木に囲まれた、石を切り出した跡が残る岩壁にで出た。この山は岩山だったと思わせ、かつては人の営みがあったが、それを覆い隠し、元の山に戻ろうとするように生い茂った樹木だった。
ここには「関東ふれあいの道」ということで、看板も設置されていた。

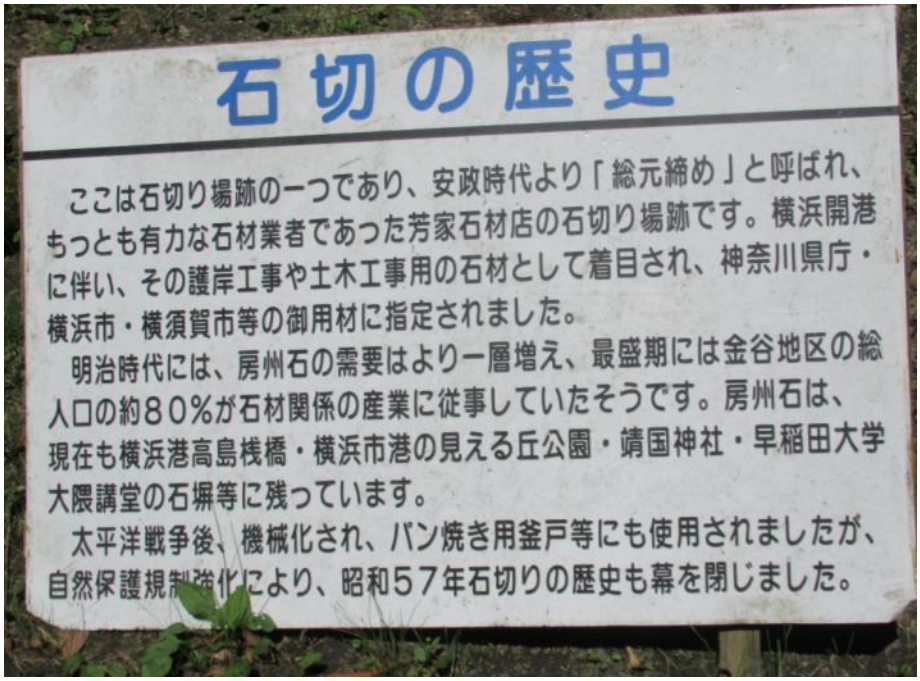
そこを抜けるとやがて展望台。そこからは下には鴨川の街、向こうには神奈川がうっすらと見え、大型船の波跡が美しかった。

それらの景色を暫く眺め、出発。丸太でくつられた階段を上り、11 時 10 分鋸山頂上に到着。古びた看板には「標高329．5m県内で12 番目の高さ…」と書かれてあった。新しい看板の「房州低名山…」が面白い。傍には可愛らしい陶器の狛犬、その前には多くの小銭が置かれていた。

先の石切り場に戻り、近くまで追ってみた。その中には本来なら切り出されたであろういくつもの石材があった。



新しい「房総石と芸術のまち…」看板を見ながら、新しい方向表示版で、両面切り取られた狭い石壁を抜け、幾何学模様のような壁面を見ながら、「石切り場の歴史…」と書かれた看板のある広場に出る。



ここで初めて此処が個人の「芳家」という石材店の持ち物だったと知る。看板には横浜港開港、神奈川の、公共施設等様々に使われおり、地域の80%の人々がこの石材関係に従事していた、とあった。

広場には「策道跡」という石を下した歯車のついた錆びた機械がそのまま置かれてあり、なかなかいい風景だった。石壁には、切り出す予定であっただろうノミ跡が模様のように残り、それをイワタバコが保護するようにくっついていた。

そこを後にし、石でつくられた狭い階段を下り、日本寺北口に向かう。入場所のおじさんが、案内パンフレットの丁寧に説明をしながら「この字は読めるか…」等々話し出し、よい話し相手になったようだ。広場の石壁には切り取られた石面の中に大きな観音像が掘られていた。

地獄覗き近くの広場から大仏広
場に下る。石で掘られた日本寺の巨大な大仏があり、外国人観光客もちらほら。そう
いえば、途中で学生らしいアジア系の若者集団にも会ったっけ。東口ｹﾞｰﾄの近くを通
り、再度上り返す。途中いろいろな石仏が置かれたところを通り、北口に戻る。

北口の岩壁にはイワタバコの葉が隙間なく茂っていた。花が咲いていないのは残念だった。関東ふれあいの道を下る。途中左手に車力道以外にも石を運んだあとがあった。

途中、台風のため崖が大きく崩れていた所が 2 カ所ほどあった。3 時に「観月台」に出た。ここからの月の眺めがいいのかと思いながら入山口には「日没時間を考慮して入山…」と書かれた看板があったっけと思い、可笑しくなった。下りてきた道が入口に書いてあった左手の「観月台道」だった
町に下りた所で 3 人老婦人がおしゃべりをして、「コロナなんて、関係ないんだな」と思いそして帰路に就いた。